

# 営農情報（水稻）

令和6年8月吉日  
福岡大城農業協同組合  
南筑後・久留米普及指導センター

6月下旬から7月中旬の断続的な降雨により、生育は軟弱徒長ぎみに推移しています。葉色の濃いほ場を中心に、コブノメイガによる食害がすでに散見されます。各ほ場の状況をよく観察し、除草や施肥・防除等、適期作業に努めましょう。

## 1 水管理

### （1）中干し以降の水管理

中干し後は、根の活力を維持するため、間断かん水を行います。ただし、穂ばらみ～穂揃期にかけては、最も水が必要な時期のため浅水管理します。特に、出穂の前後1週間は水を切らさないようにします（花水）。

なお、中干しが十分にできなかったほ場や、葉色が濃く倒伏の恐れのあるほ場では、強めの間断かん水を行ってください。

**!!注意!!** 出穂20日前頃までに中干しを終わりましょう。

### （2）台風など強風時

風雨による葉の裂傷が心配されるため、深水にして稲体を守ります。なお、台風通過後の数日間は、水分の蒸散が激しいため、水を保ち続けましょう。

## 2 穂肥

6月24日植え水稻での穂肥時期の目安と施用量は、以下のとおりです。

品種	出穂期	穂肥【NK7号】 /10a		
		1回目 (出穂20～18日前)		2回目 (1回目の7～10日後)
元気つくし	8/20頃	8/4頃	15kg	10kg
ヒノヒカリ	8/27頃	8/9頃	20kg	—
ツクシホマレ	9/5頃	8/15頃	25kg	20kg

## 3 病虫害防除

**●防除の際は、湛水することで、薬剤の防除効果が安定します。**

### （1）病害

高温多湿が続くと、「紋枯病」の発生が多くなります。倒伏の要因となるため、昨年多発生したほ場では、穂肥時期頃から発生状況の確認をしてください。

(2) 海外飛来性害虫（ウンカ類、コブノメイガ）

飛来量は昨年より多く、平年並み～やや多い発生と予想されています。すでに、葉色の濃いほ場では、コブノメイガによる食害が見られます。また、箱施薬剤無しのほ場では、ウンカ類の多発生も確認されており、今後の発生状況には注意が必要です。特にトビイロウンカは急激に増殖するため、8月中旬の基本防除を確実に実施してください。

(3) 吸汁性カメムシ類

穂肥時期頃までに、畦畔の除草を徹底して発生源をなくしましょう。

【基本防除①】（8月中旬）

元気つくし、ヒノヒカリ、ツクシホマレ：8月10～15日		対象 病害虫
粉 剤	アプロードモンカットスタークルF粉剤DL 3～4kg/10a	紋枯病 ウンカ類 カメムシ類
液 剤	アプロードロムダンモンカットエアー 750倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍	紋枯病 コブノメイガ ウンカ類 カメムシ類

【基本防除②】（出穂期前後）

元気つくし：8/18-23頃、 ヒノヒカリ、ツクシホマレ：8/25-30頃、		対象 病害虫
粉 剤	ブラシントレボン粉剤DL 4kg/10a	いもち病 ウンカ類 カメムシ類
液 剤	ブラシンフロアブル 1000倍 トレボンEW 1000倍	

【補正防除】（乳熟期頃～）

ウンカ類、カメムシ類が多発生した場合		対象 病害虫
粉 剤	スタークル粉剤DL 3kg/10a	ウンカ類 カメムシ類
液 剤	スタークル顆粒水溶剤 ウンカ類 3000倍 カメムシ類 2000倍	

☆農作業時の熱中症に注意しましょう!!

●日中の気温の高い時間を避け、涼しい時間帯に作業 ●こまめな休息と水分補給

【農薬の安全使用上の注意】①散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！

②散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！ ③散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！ ④防除履歴の正確な記帳！